

岡山県農林水産総合センター森林研究所（林業研究室）
試験研究課題評価票（概要）

< 事前評価 >

- 評価基準 5：優先的に実施することが適当
 3：計画等を改善して実施することが適当
 1：計画等を見直して再評価を受けることが必要
- 4：実施することが適当
 2：実施の必要性が低い

課題名	シカによる森林被害の実態と対策に関する研究				
総合評価	3. 8				
	5 : 1人	4 : 3人	3 : 2人	2 : 1人	1 : 1人
助言・指摘事項等	<p>1. シカの被害は県東北部の限られた地区のみであったが、最近では被害地域が拡大し、森林保全を始め、農作物、果樹、更には、地域の生活環境に対し深刻な状況である。一日も早い適切な対策と、成果をいかに早く反映できるかというのが重要なポイントである。</p> <p>2. 防護柵が一見有効と思われるが、柵以外の地域に移動し被害地を拡散する恐れがある。定期的捕獲を推進するには、シカ肉の積極的利用も考えるべきで、専門店（フランス料理店、イタリア料理店）でのジビエ料理（シカ肉）のメニュー化や、一般消費者へのシカ肉の浸透を図るとともに、シカ肉のヘルシー面や地産地消を普及すべきである。</p> <p>3. 県境を越えて移動する動物であり、国や他県と調査手法をそろえて共同で取り組み、ある程度広域の状況を把握する必要がある。また、総合センターとして農林関連の機関が統合されたメリットを活かすとともに、県内の農林関係者（機関）の検討会議（協議会）を作る必要がある。</p> <p>4. 「生息状況調査」の後、対処方法を検討するのが望ましいが、頭数が増加し被害が増大する中、これ以上被害を拡大させないためには、大まかな情報で、強力な捕獲を進めながら、モニタリングし、調整をした方が良い。</p> <p>また、生息数調査で終わっては、密度コントロール（捕獲）の実行が何年も遅れるため、研究と同時に行政レベルで将来の構想（どのように密度を減らすのか）を進める必要がある。</p>				

課題名	倒木接種による省力的きのこ栽培方法の研究				
総合評価	3. 7				
	5 : 1人	4 : 4人	3 : 2人	2 : 1人	1 : 1人
助言・指摘事項等	<p>1. 里山整備の一環として、未利用広葉樹林の適切な利用につながるように、実施することが重要であり、台風被害跡地の広葉樹林の整備方法と合わせ研究していただきたい。</p> <p>2. シイタケの生産は、菌床栽培が主流（76%）だが、2006年から栽培法の表示が義務化されてからは、その違いを一般消費者が知ることとなり、味・香り・食感の良い原木シイタケの需要も増える傾向にある。シイタケは、日本人が昔から最も親しみ食用してきたキノコであり、生産量が減少する中で意義ある課題である。</p> <p>3. 耕作放棄地のホダ場活用は、良い発想であり、傾斜度、作業道の設置方法等を勘案し、容易で効果的な栽培手法の確立を期待する。</p> <p>ナラ類を伐倒して野外実験を実施する場合、ナラ枯れ発生（カシノナガキクイムシ誘引）を助長する恐れがあるため、地図上で被害地やナラ林の分布を明確にするなど、被害発生地との関係を十分に把握してから実施場所を決定する必要がある。さらに、成果の生産者への普及が可能かどうかという問題が残るため、研究完了時には、普及方法（枯死被害を広げないための）も具体的に示していただきたい。</p> <p>4. 省力化に関しては、この方法以外についても比較検討し、県としてオリジナリティーある手法の提案及びその実用性の検討の後、成果を地域の林家に還元できる計画にすべきである。</p>				

岡山県農林水産総合センター森林研究所（林業研究室）
試験研究課題評価票（概要）

<事後評価>

評価基準 5：著しい成果が得られた 4：十分な成果が得られた 3：一定の成果が得られた
2：見込んだ成果を下回った 1：成果が得られなかった

課題名	施業困難地における最適作業システム判定方法の確立				
総合評価	3. 7				
	5： ー 人	4： 4人	3： 2人	2： ー 人	1： ー 人
助言・指摘事項等	<p>1. ソフトウェアの開発まで実施できたことは、高く評価できる。作業道開設技術や作業システム選択については、間伐推進のためのキーポイントでありタイムリーな課題であるので、実施されたことは評価できる。</p> <p>今後、間伐等の木材搬出に伴う施業が中心となるが、森林組合職員等の森林施業プランナーの技術向上に貢献できるものと期待する。</p> <p>2. 各森林組合が普通に使えるように普及に努めていくことが重要で、普及のための努力を今後も続けること、特にシステムが利用しやすいようにマニュアル作成や指導等の充実が望まれる。また、実際に使用または研修を受けた普及員の反応が知りたい。</p> <p>3. 作成した判定プログラムの実用性、有効性に関する検証、すなわち労働生産性、造材歩留まりなどに関し、当該判定プログラムを用いた予想と、森林組合などの実測データを比較照合して問題を抽出したのち修正作業を行い、信頼性ある判定プログラムに改善する必要がある。</p> <p>4. ソフトは様々な場面で実際に使用して不具合な点を改良してはじめて有効なものになると思うので、是非そこまで遂行して欲しい。</p> <p>なお、作業道関係の課題については、開設・維持管理技術につながる報告も示された方が良かったと思われる。労働生産性の予測にとどまらず、搬出コストも予測できるソフト開発も、今後期待したい。</p>				

課題名	アカマツを利用した菌根性きのこの栽培				
総合評価	3. 3				
	5： ー 人	4： 2人	3： 4人	2： ー 人	1： ー 人
助言・指摘事項等	<p>1. 特許出願につながる技術を開発したことは高く評価できる。</p> <p>2. 林地への定着技術として、感染苗の大量生産が可能な「二段ポット苗木法」を開発しており、ホンシメジの味が入手できる可能性を感じた。</p> <p>3. マツタケについては、短期間で結果が出にくく、この分野の研究者が少ない等悪条件の中、今後は基礎データの蓄積が必須であると思う。</p> <p>4. アカマツに依存するマツタケ等の菌根性キノコ、特にマツタケ栽培は長年の県民の夢であり願望でもあり、早い段階での実現を期待したい。本件課題に当たっては、所の威信を懸け所内の研究のみならず、あらゆるデータ等を収集分析し極限まで取り組んでもらいたい。</p> <p>また、全体を通して、県内の報道機関にその成果等を発表し研究所の存在地位を高めてもらいたい。</p> <p>5. マツタケは、マツ枯れ対策がなければ、発生ピーク樹齢(15～45年生)のアカマツ本数が確保できないことが明らかであり、研究による技術開発だけでなく、技術応用のための総合的な計画が必要である。片手落ちとならないような、行政レベルでの推進をお願いしたい。</p> <p>6. 今後は、夏のキノコ、アイタケについても研究してほしい。</p>				